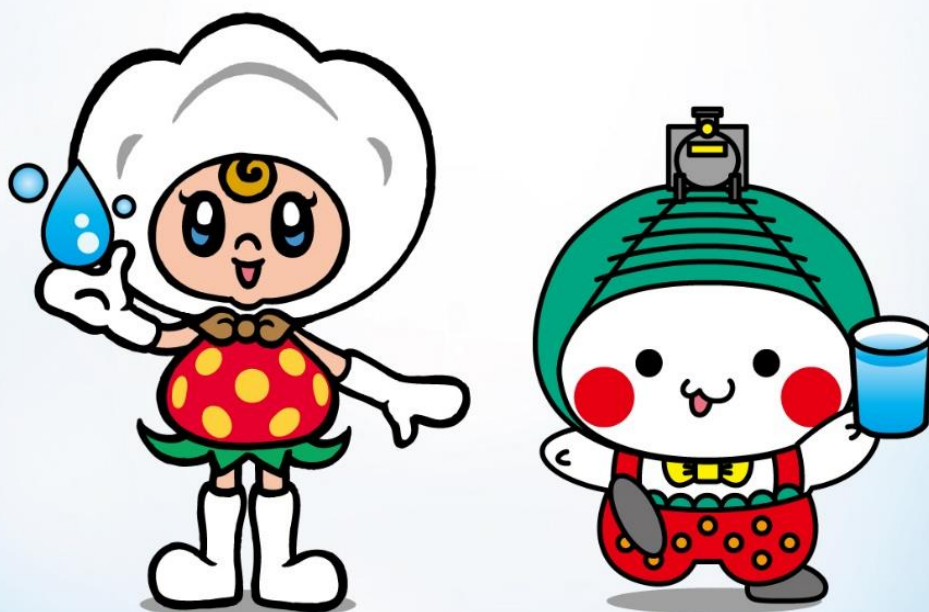


概要版

真岡市 水道事業 経営戦略(改定)

令和 7 年度 — 令和 16 年度
(2025 年度 — 2034 年度)



令和 7 年 3 月
真岡市

1. 経営戦略の位置付け

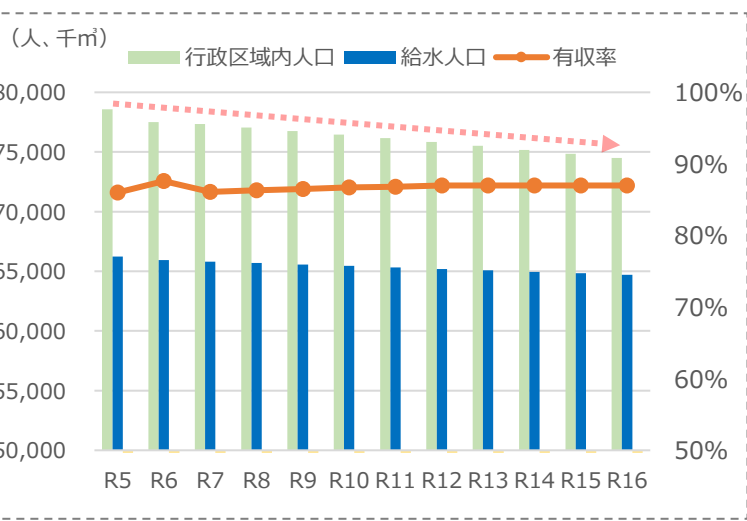
真岡市水道事業において、人口減少による収入減少や物価上昇による維持管理費の増加、老朽化施設に対する更新費用の増加など、厳しい経営環境にあります。さらには、自然災害の激甚化・頻発化への対策も急務となっています。

真岡市水道事業経営戦略改定版（以下「本経営戦略」という。）は、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むべく、前回令和 3 年 3 月に策定した水道事業経営戦略を改定するものです。なお、本経営戦略は、令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年を対象期間とします。

2. 経営の基本方針

本市は「JUMP UP もおか～だれもが“わくわく”するまち～」(真岡市総合計画)の実現を目指して快適な環境のまちづくりを進めています。本経営戦略では、上記の計画に基づき、「清浄でおいしく豊富で安全な真岡の水の安定供給」を基本理念として、水道施設等の計画的な更新を進め、施設や管路の健全性を維持していきます。この基本理念のもとに、現状、将来の事業環境や施設の見通しを踏まえて、基本方針を定め、戦略的な水道事業運営を行います。

3. 将来の事業環境



本経営戦略の基本となっている「将来における本市の人口」は、令和 5 年度に **78,571 人**、令和 16 年度に **74,512 人**（令和 5 年度の約 5%の減少）今後徐々に減少傾向にあり、今後も同様に減少が続けば、令和 26 年度には **70,822 人**（令和 5 年度の約 10%の減少）になると推測されます。

人口減少に伴い、「給水人口」も**減少傾向**にあり、給水量の減少は避けられない見通しにあります。

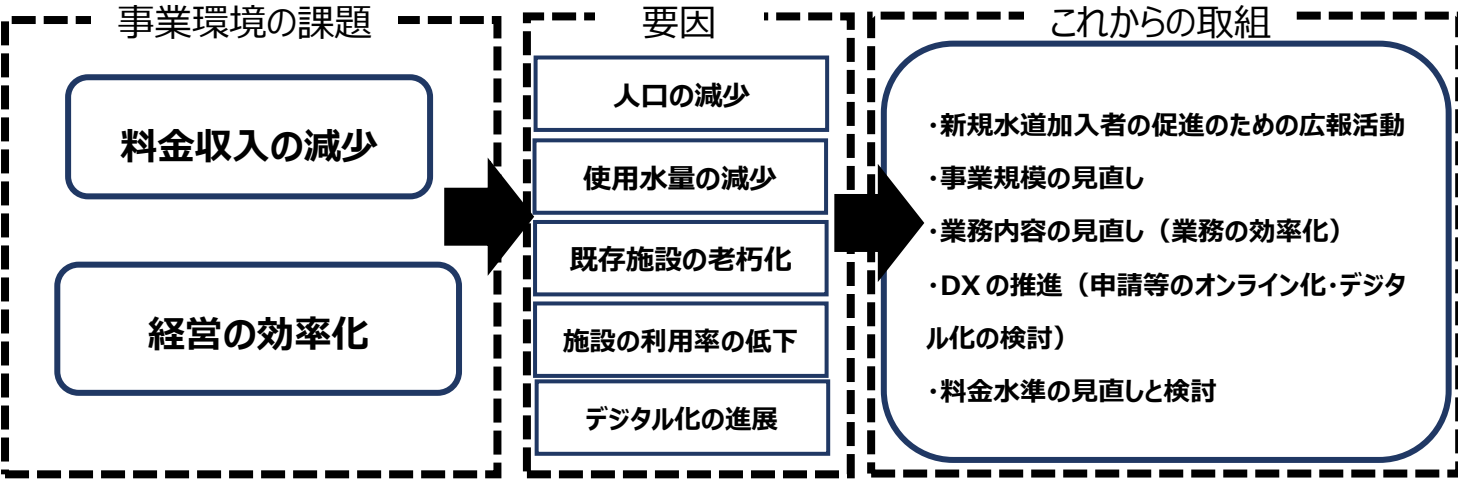
給水量の減少により、水道事業の収益が減少することになるため今後、健全な水道事業を継続するためにも収益の確保が急務となっています。



健全な事業環境を維持できなくなってしまう。

4. 事業環境の課題と今後の取組

1 料金収入の減少	給水量の減少に伴い、料金収入も減少していくため、水道料金水準の見直しを含め適正な収益確保に向けた取組を早急に検討する必要があります。
2 経営の効率化	人口減少、節水機器の普及等による料金収入の減少、施設等の老朽化による更新需要の増加等により、経営環境がより一層厳しくなると予想されるため、水道料金水準の見直しを含め適正な収益確保に向けた取組を早急に検討する必要があります。 これまで同様に民間に委託するなど事業の効率化を図るとともに、更なる経営の効率化のために ICT 活用などについて検討を行う必要があります。



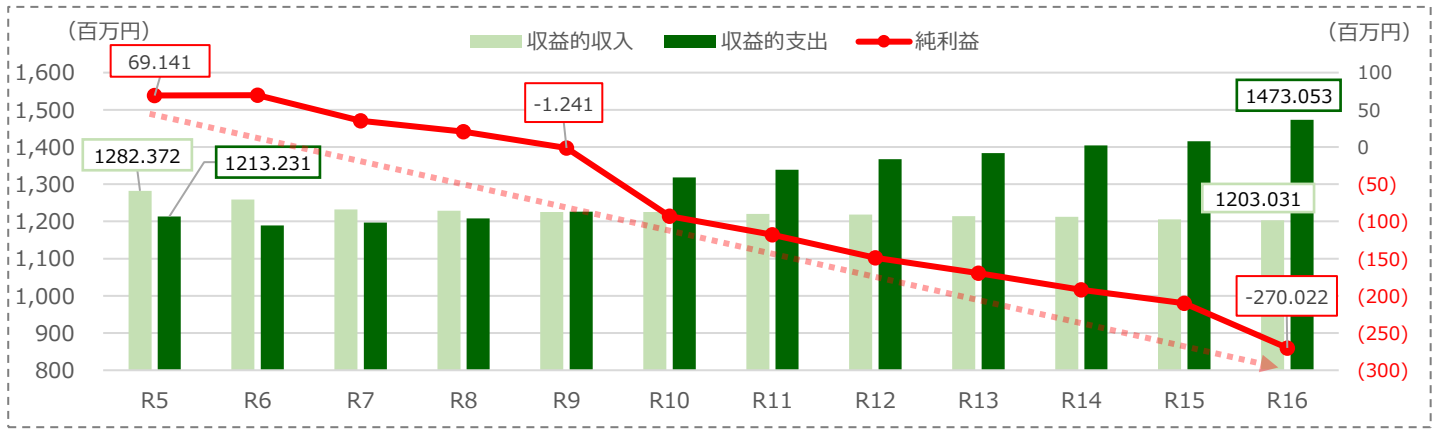
5. 投資・財政計画

収支計画	○計画期間：令和 7 年度から令和 1 6 年度まで
策定方法	○費用の推計：令和 5 年度決算をもとに、令和 7 ～ 1 1 年度中は物価上昇率 3 % 増、令和 1 2 ～ 1 6 年度中は 1 % 増を考慮
	○建設改良費の推計：建設事業計画から推計

1) 収益的収支、基準内繰入金及び基準外繰入金

有収水量が減少傾向にあることから、今後は使用料収入が減少傾向となる見込みです。
また、毎年 1%の物価上昇率を見込んでいることを踏まえて、支出も年々増加傾向となります。（令和 5 年度と比べて令和 16 年度に支出は約 1.2 倍に膨らみます。）

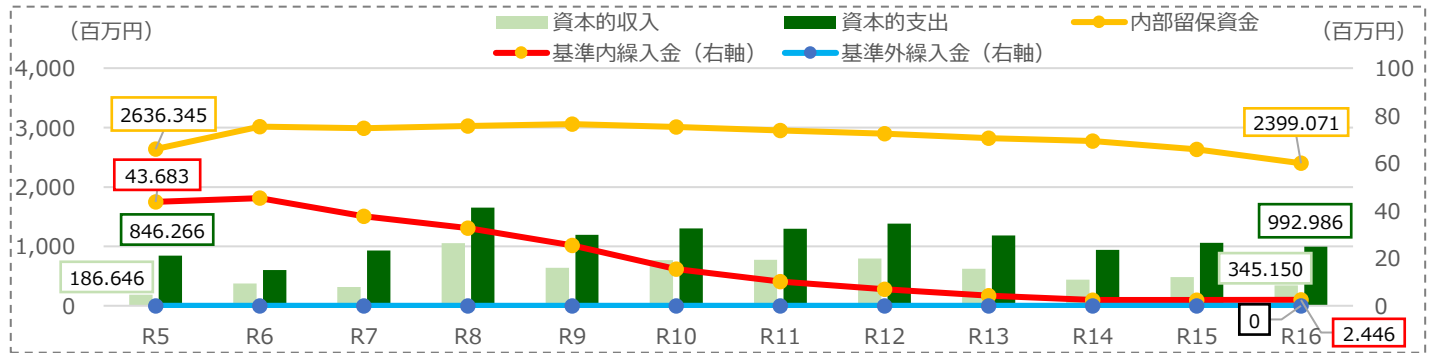
令和 5 年度には利益が約 7 千万円ありましたが、
令和 16 年度には赤字額が約 2 億 7 千万円となる見込みです。



2) 資本的収支、基準内繰入金及び内部留保資金

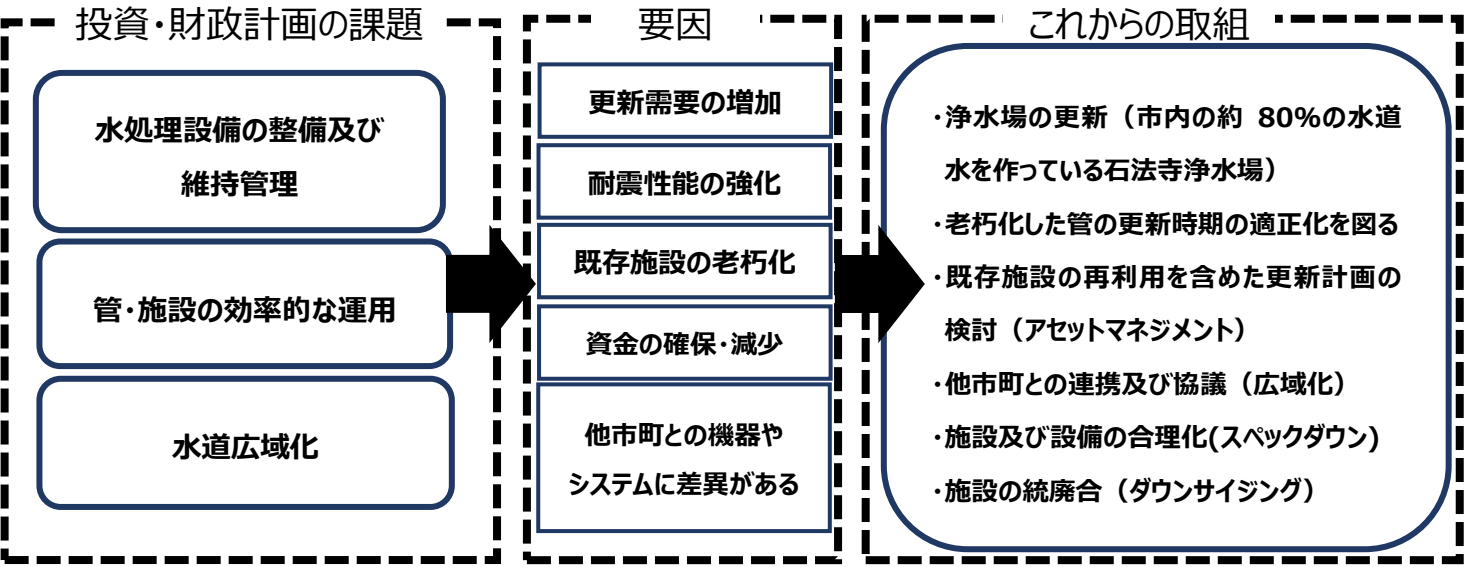
令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年間で、資本的収入では総額約 62.4 億円を見込んでおり、そのうち 90%（56.3 億円）が企業債、その他は、他会計負担金、工事負担金等として構成されます。
資本的支出では、総額約 119 億円を見込んでおり、そのうち 80%（96 億円）が建設改良費、残りはすべて企業債償還金となります。資本的収支差額分の 56.6 億円を補填する財源に充てることができる現金等の内部留保資金は各年度において確保しており、令和 16 年度には 24 億円を保有しております。この資金は今後の更新事業等に充当する財源となります。
※真岡市の適切な内部留保資金額は、固定資産額によって変動します。（令和 5 年度には、約 51 億円が適切な金額になります。）

内部留保資金は、**将来のための貯金**です。（水道施設に不備が生じた際に使用）
これからの将来にわたって “安全に” “安心して” “いつでも” 水道を利用するために “今” ある貯金を増やしていくことが大切です。



6. 投資・財政計画の課題と今後の取組

1 水道施設整備及び維持管理	安定した水道供給能力の確保に向け、より良質な水道水を供給するための施設整備や石法寺浄水場の耐震化を推進する必要があります。
2 管・施設の効率的な運用	今後、法定耐用年数を経過する水道施設が多く、多額の更新費用が必要となります。お客様が安心して水道を使い続けられるように、老朽化した施設の電気・機械設備や管路の更新等・施設を効率的に更新・運用します。
3 水道広域化	栃木県は、令和 5 年 3 月に「水道広域化推進プラン」を策定し、県央地域では、管理の一体化、施設の共同化に向けた検討があげられております。本市としても経費削減や組織体制の強化等各幅広い効果が期待できるため、今後も広域化、共同化に取り組んでいく必要があります。



7. 経営基盤の強化に向けた今後の方針

料金回収率(※1)の向上に向けたロードマップを以下に示します。
料金回収率について、今後減少傾向にあるのは石法寺浄水場における減価償却費の増加、物価上昇による維持管理費が増加することが影響していると考えられます。水道事業について料金回収率は、令和 16 年度で 74.9%に達する見込みです。

	R4（参考値）	R5（現状値）	R11（予測中間値）	R16（将来予測値※2）
真岡市	93.4%	96.2%	84.2%	74.9%
近隣市町	100.8%			
類似団体	98.3%			

※1 収入と支出のバランスを示した指標、収入＝支出の場合を 100%（料金回収率の適正な数値は、100%以上）
※2 予測値とは、真岡市水道事業における財政計画を考慮した現状の数値のこと、現状維持とする

8. 経営戦略の事後検証、改正等に関する事項

本経営戦略については、令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年を計画期間としております。この期間中、毎年度の進捗管理を踏まえ、目標値と実績値の比較分析を確実に実施するために、PDCA サイクルに基づき、計画の策定（Plan）、事業の実行（Do）、達成度の評価（Check）、改善（Action）を行い、フォローアップしていきます。このうち達成度の評価及び改善については、モニタリング及びローリングにより実施し、**少なくとも 5 年ごと**に中期的な経営分析及び検証を行い、進捗状況を確認します。

